

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2013

課題番号：20530533

研究課題名(和文) 被虐待児の養育支援における包括的心理コンサルテーションシステムの開発

研究課題名(英文) Development of the comprehensive psychological consultation system in children's home.

研究代表者

加藤 尚子 (KATO, Shoko)

明治大学・文学部・准教授

研究者番号：00307977

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、急増している児童養護施設で暮らす被虐待児とそこで働く職員への支援方法として、施設における被虐待児への心理支援プロセスをふまえた組織全体への効果的な介入を行う、包括的心理コンサルテーションシステムの構築をめざしたものである。児童養護施設における心理コンサルテーションは、被虐待児への間接的な心理支援方法であると共に、被虐待児を養育する児童養護施設職員の職務遂行の支援となり、メンタルサポートとしても機能する。研究の結果、心理コンサルテーションは個人、集団、システム等、複数の方法を組み合わせることにより効果を発揮し、相互補完的に働き、有効な介入が可能となることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This research aims at the construction of a comprehensive mental consultation system which performs effective intervention in the whole organization based on the mental support process to the abused child in an institution as the support method to the personnel who work there with the abused child who lives in the children's home which is increasing rapidly. The mental consultation in a children's home serves as support of job execution of the children's home personnel who bring up an abused child, and functions also as mental support while it is the indirect mental support method to an abused child. As a result of research, by combining two or more methods, an individual, a group, a system, etc. demonstrated the effect more, and committed mental consultation in a mutually complementary fashion, and it was suggested that effective intervention is attained.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会福祉

キーワード：コンサルテーション 児童養護施設 児童虐待

### 1. 研究開始当初の背景

被虐待児への支援方法の確立は、現在の社会福祉における重要課題である。特に被虐待児の受け入れが急増している児童養護施設では、その治療・支援方法の開発が急務の課題となっているが、効果的な心理支援の方法は未だ確立していない。その結果、職員のバーンアウトや疲弊が生じ、子どもも十分な心理支援を受けられない状況がある。施設での支援は、職員と子どもとの関係形成を軸に支援が実践される。

施設における効果的な心理支援の方法として、心理コンサルテーションがあるが、システムを見据えた介入方法についてはまだ十分な研究の蓄積がない。

### 2. 研究の目的

本研究では、被虐待児への心理支援を実現していくためには、施設における心理支援プロセスを明確にし、支援集団と組織全体と包括した心理コンサルテーションシステムを検討することを目的とする。職員と子どもとの関係形成と支援プロセスをふまえ、心理コンサルテーションの機能を把握し、組織全体への効果的な介入を行う、包括的心理コンサルテーションシステムの構築をめざす。

### 3. 研究の方法

(1) 施設における被虐待児への心理支援プロセスの検討するために、施設職員と被虐待児の養育関係形成および心理支援プロセスについて検討する。先行研究の分析とあわせて、被虐待児を養育している児童養護施設の施設職員、施設長、施設心理士などの職員に対して詳細な面接調査を行い、被虐待児への施設における心理支援のプロセスを明らかにする。

(2) 心理コンサルテーションの具体的方法における機能的側面の検討を、「心理コンサルテーション機能測定尺度」を開発し測定するとともに、施設における心理コンサルテーションの実施方法について明らかにする。

(3) 以上の研究をふまえ、施設における被虐待児への心理支援プロセスに基づく、包括的心理コンサルテーションシステムの構築をはかる。

### 4. 研究成果

#### (1) 施設職員の困難と子どもとの関係性

施設における職員の子どもの関係上・支援上の困難と、それに対して心理コンサルテーションがどのような機能を果たしているかを明らかにするために、試行心理コンサルテーション面接を4人の児童養護施設職員に実施し、その内容をトランスクリプト化し、内容分析による質的分析を行なった。分析に用いた心理コンサルテーション面接は、実際の事例を用いながらも意図的に設定したものである。

そこから、虐待を受けた子どもをケアする

支援者への心理コンサルテーションにおいては、虐待の結果子どもが被る心理的被害などに関する専門的知識の提供が重要であることがわかった。また、コンサルティの対処能力を賦活させるために、コンサルティの感情への配慮をしながら既存の能力をエンパワーメントしていくことの重要性が示唆された。「問い」を投げかけるコンサルタントの関わりが、コンサルティ自身の力による支援プロセスを進めていくのに役立っていた。まとめると、専門的知識の提供、対処能力の回復、②-1 客観性の賦活、-2 メンタルサポートとエンパワーメント・共感的理解が、心理コンサルテーションにより果たされていた。コンサルタントの役割としては、「問い」の機能と、プロセス共有が重要であり、コンサルタントからの質問が繰り返される中で、コンサルティは問題を解決するための着目点と思考方法を獲得していることが示唆された。

職員の困難として、怒りなどの感情の爆発や、対人関係上の不適応行動、職員と子どもとの関係性のなかに現れる基本的な対象関係上の課題などの、虐待を受けた子どもへの支援上の特性が明らかにされた。心理コンサルテーションの内容においても、子どもとの関係が主題として扱われることが多く、職員が感じる困難も、知識の不足だけでなく自分の感情への対処も含めた心理的困難が大きかった。以上をふまえた上で、コンサルティと虐待を受けた子どもとの関係に焦点化した、心理コンサルテーション介入の重要性が示された。

#### (2) 心理コンサルテーションの機能とプロセス

心理コンサルテーションの機能について明らかにするために、「心理コンサルテーションの機能測定尺度」を開発し、質問紙調査を行った。その結果、「組織との関係調整」、「心理的側面に関する客観的理解の促進」、「コンサルタントによる心理的支え」、「職員関係の強化」の4つの機能が明らかとなった。バーンアウト尺度との比較により、心理コンサルテーションにおいて「組織との関係調整」を強く経験している群は、バーンアウトのリスクが低くなることが明らかとなった。

心理コンサルテーションにおいて、職員間の相互理解や関係を深める「職員関係の強化」と、上司や施設など組織上の関係を良好にする「組織との関係調整」の、職員関係や組織との関係を強化・調整する働きが行われていた。また、子どもの心理状態や現在の状態についての専門的知識の提供や職員と子どもとの関係などについて客観的に理解する「心理的側面についての客観的理解の促進」コンサルタントに自分のことが理解されたり評価された結果、サポート感覚を得たりエンパワーメントされたりする、「コンサルタントによる心理的支え」の、4つの機能いず

れも、先行研究において指摘されていた事項と合致し、その関連から心理コンサルテーション機能測定尺度の内容的妥当性は認められた。

特に、組織との関係調整は重要であり、心理コンサルテーションの中で「組織との関係調整」を高く経験する程度に応じて、「情緒的消耗感」と「脱人格化」は低減され、「個人的達成感」は高くなるという結果が得られた。心理コンサルテーションにおいて組織との関係調整を意図した働きかけを行うことにより、コンサルティのバーンアウトリスクを結果として低減させることが可能となる。コンサルティをサポートするためには、上司などの管理者による支援と相互理解を深める働きかけが必要である。仲間集団と組織全体との関係を調整し、システム全体でコンサルティを支えることを意図した働きかけが重要であるといえよう。これらは、施設における包括的コンサルテーションシステムを検討する際にも重要な視点になると思われる。

以上、心理コンサルテーションの機能測定尺度についての検討から、施設心理士による支援として、知識の提供や客観性の回復などのコンサルタントによる直接的な介入と、職員を取り巻く環境へのアプローチの両側面が重要であることがわかった。施設心理士には、対象となる被虐待経験を持つ子どもを理解し、行動上の問題を読み解くための確かな心理的・精神医学的な専門知識とともに、職員と子どもとの間で展開される関係性を見る視点、そして子どもや職員をとりまく環境を見立てそれに働きかける姿勢が必要とされる。子ども－職員個人－チーム－組織－施設心理士が、子どもの支援という目的を果たすために有機的につながり、システムの中で重層的に支えあうことが必要であり、施設心理士は施設という場全体が心理支援的な場になるよう心理コンサルテーションを通して働きかけることが重要であるといえよう。

児童養護施設での養育は、組織という器の中においてチームで行われるため、心理コンサルテーションを通じて職員関係の調整を図ることや、組織と個人、組織と集団の関係調整を図ることは、職員支援となると同時に、良好な養育環境を作り出すことに貢献する可能性を持つといえよう。施設心理士が目指す心理支援は、個別心理療法のみにとどまらず、こうした様々なレベルからの介入を通して、システムに働きかけ、被虐待経験を持つ子どもが暮らす場の心理的環境を整えていく、まさにコミュニティを対象とした働きが求められる。現状では、心理支援を必要とする子どもの数に比べて十分な数の施設心理士が配置されていない現状にある。一人の施設心理士が治療できる子どもの数は限られているが、心理コンサルテーションを通して職員の養育活動を支援することにより、児童養護施設という場全体の心理支援力の向

上に寄与できる可能性が示されたといえる。

### (3)施設における包括的心理コンサルテーションシステムの構築

以上の質的、数量的研究を踏まえ、A 児童養護施設において介入実践を5年間にわたり継続的に行った。「心理コンサルテーション機能測定尺度」と「バーンアウト尺度」を実施し、施設の状況を測定した。その上で、個人コンサルテーション、養育単位ごとのグループコンサルテーション、経験年数に基づく個人・グループコンサルテーション、管理職などを対象とした個人・グループ単位での管理コンサルテーション、研修などの知識を提供する教育的コンサルテーション、を組み合わせ、毎週実施する包括的コンサルテーションプログラムを実施した。コンサルテーションの中では、職員と子どもとの関係形成のプロセスを意識および職員が直面する困難に着目し、その観点からの検討を加えた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計 4 件)

加藤尚子，児童養護施設における心理コンサルテーションの機能に関する研究—『心理コンサルテーション機能測定尺度』を用いた検討，心理臨床学研究，査読あり，vol.31，No.4，2013，663-673.

加藤尚子・益子洋人，児童養護施設職員のバーンアウトに関する研究—職員支援にもとづく被措置児童等虐待防止の観点から—，明治大学心理社会学研究，査読なし，第8巻，2013，1-16.

加藤尚子，親に放任されている子，児童心理，査読なし，vol.65，No.7，2011，82-87.

加藤尚子，虐待を受けた子どもの支援者への心理コンサルテーションの機能とプロセスに関する研究，社会福祉学，査読あり，vol.150，No.89，2009，5-15.

### 〔学会発表〕(計 0 件)

### 〔図書〕(計 4 件)

加藤尚子 他，誠信書房，対人援助のためのグループワーク2，2013

加藤尚子 他，明石書店，子どもの権利擁護と里親家庭，施設づくり，2013

加藤尚子編著，ミネルヴァ書房，施設心理士という仕事，2012

加藤尚子 他，誠信書房，対人援助のためのグループワーク，2013

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

加藤尚子 ( KATO Shoko )  
明治大学・文学部・准教授  
研究者番号：00307977

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし